

哲学教育ワークショップに関するアンケート結果 (公表可の分)

アンケート項目

1. 今回のワークショップについての感想や意見（特定の提題者に対してでもけっこうです）をお書きください。
2. 今回のワークショップの「哲学対話とクリティカル・シンキング」のテーマ設定についてご意見をお書きください。また、次回以降のワークショップで扱って欲しいテーマ（具体的なテーマ、呼びたい人などを含む）、日本哲学会の取り組みへのご意見などありましたらお書き下さい。

アンケート回答

A 会員（大学教員（非常勤職を含む））

1.
なかなか有意義だった。CT そのものについてあまり知らなかったのでたいへん勉強になった。中学や高校の授業で討論、対話の実例が紹介されたが、CT は必ずしも口頭での話し合いを前提にしなくても、ペーパーでやり取りする方法もあるのだと（またその方がむしろよいのかも）いうことを知った。
2.
プラトンの対話のような哲学もあるが、CT と哲学の関係についてはよくわからない。教育という意味ではもちろん CT は有意義だろうと思う。

B 会員（大学教員（非常勤職を含む））

1.
実践例は勉強になった。貴重な資料であった。ただ、種々の実践例を通して見えてくるはずの「理論」についてはあまり論じられなかったと思う。その点がやや残念であった。
2.
空欄

C 会員（大学教員（非常勤職を含む））

1.
スキルを（ある意味）重視する CT と、「教えない」アプローチの哲学対話の 2 つのアプローチのちがいが気になった。
2.
大学における哲学教育。何を教えるか。どう教えるか（講義、ゼミ）。

D 非会員（学生院生）

1.

哲学教育それ自体の意義について、あまり議論なかったのは残念だった。（勿論 WS の目的ではないのだろうけど）

教育の内容上、複数人で教えることや、他分野（他教科）の人との協働が重要なケースがあると思う。そのときに、どのように説得するのが大事な気がする。

2.

3 つのバラバラな発表だったが事前にギロンなどしたのだろうか？ただ、重要なテーマだと思うので継続的にやってもらいたい。

E 会員（その他（退職後、PD を含む））

1.

哲学対話において、クリティカル・シンキングをどのように活用できるのかが具体的にはわかりにくかった。

2.

結局、両者の関係についてどのように結びついているのだろうか。
もう少し考えてみたい。

F 会員（大学教員（非常勤職を含む））

1.

哲学教育ワークショップはこれまで何年も毎年も実施され、その成果の蓄積からか今日は提題者の実戦経験が異なっているにも関わらず、議論が重要な根本問題へとフォーカスし、具体的な授業法の話も豊富でたいへん充実していたと思います。特に中川さんと菊地さんの授業実践には感銘を受けました。

2.

哲学対話とクリティカル・シンキングとは親和性が必ずしもないのにどうして、どの点についてもう少し深められたらと思います。今後も継続して議論していただきたいと思います。

G 非会員（その他）

1.

そもそもクリティカルシンキングや P4C は知らずに来たのだが、発表者 3 名の方が丁寧に説明してくださったので、理解しながら聞くことができた。

中・高・大と年齢が違い、時間も違うということで理解度が違うというのは当前だろう。現場が違うが、同じくらい習熟を行えば、レベルの高い議論ができるのだろうなと思った。

2.

とても興味深いものだった。現場が全員違うというところでそれぞれ感じるところが違うのが非常に良かったと思う。

H 会員（大学教員（非常勤職を含む））

1.

中高の哲学教育だけでなく、大学の教育についても扱っていただけると、参考になりました。

2.

実際に皆さんが大学の哲学の授業で、どのような工夫をしているのか、が知りたいです。

I 会員（大学教員（非常勤職を含む））

1.

菊地さんのピアワークの具体的なやり方はかなり参考になりました。

2.

空欄

J 会員（大学教員（非常勤職を含む））

1.

大人数授業（100 人を超えるもの）では、CT の「実習」を行うのは現実的に難しいと思うが、その点についてはどのようにお考えか。特に、TA・SA を雇えない非常勤講師が、大人数の CT 講義を行う上での対処法はあるか。

テーマ選定の基準はあるか。例えば、菜食主義などの学生の日常や常識を脅かすテーマだと、そもそも考えることを拒否する学生が出てくる。そうした学生に配慮したテーマ選定の基準はあるか。

2.

空欄

K 非会員（大学教員（非常勤職を含む））

1.

具体的な講義の内容を知ることができて非常に有益でした。

2.

今後もこのテーマを継続してほしい。

L 非会員（学生院生）

1.

WS 全体の目的が少々不明瞭だったように感じた。
それゆえに全体を何を考えながら聴けばいいのか困った。

2.

空欄

M 会員（大学教員（非常勤職を含む））

1.

授業実践についての具体的なお話が聞けてとても参考になりました。
とくに中川先生のお話は、授業の映像もあってよく分かりました。
菊地先生のお話については、「医療と社会」の授業のほうの進め方についても詳しく聞きたかった（時間があったら）。

2.

今回のテーマはとてもよかったですと思います。
道徳や国語の授業での P4C の実践例については今回の中川先生のお話でも聞くことができたので、他の科目（社会、理科、外国語（?）、数学（?））での P4C やクリシンのやり方、導入例について聞けるとありがたい。

N 会員（大学教員（非常勤職を含む））

1.

お三方のお話はそれぞれ大変に勉強になりました。
私の勤務校は附属の高校・中学もあり、大学との接点という意味では参考になりました。

2.

倫理などの実践的な哲学の分野からではなく、認識論・形而上学・言語哲学などの比較的理論的な分野からの素材をつかった哲学教育（中・高レベルでの）の可能性について。
哲学・教育学双方のから少し嫌厭されているように思える教育哲学（philosophy of Education）と哲学対話・クリシンの関係について。

O 会員（学生院生）

1.

3 番目のキクチ先生の発題は CT の具体的方法に関するものであり、有益であった。実際あのような方法はわれわれが論文を書くときに必ず行っていることである。大学生にとっては必須の授業であると思われる。一番目のスズキ先生の発題は、大学生よりも若い中高生たちに対して、どのように授業すべきかについてのヒントを示した。とにかく思ったことは言うことが CT の前提である。これには小学生から論理学の授業が必要と思う。

2.

日本人がもっとも苦手とする領域であり、かつもっとも必要な分野なので、このテーマはとてもよかった。よく生きるということにまっすぐつながるので、哲学分野でもっと積極的にかかわっていくべきテーマと考える。

P 非会員（その他）

1.

学生や生徒はどういうつもりで臨めばいいのか不安だ、「論破ではだめなのか？」というのに共感する、という発言をした者です。（京大職員&他大学で週1の授業をしています）授業の最終的なゴールについて、明示 or 明示しないという視点でお答え頂きました。ありがとうございます。ただ、私が思うに、初学者の不安は、このタイプの授業に臨むとき、「正しい答えを見つけない」という態度で臨んでいいのか？というところにあるのではないかと思います。もっと手前のところ私たちはなんで勉強するのか？にかかわるところです。「いい」って一言（暗示的にでも）言ってあげてもいいんじゃないかなと…。

Q 会員（大学教員（非常勤職を含む））

1.

空欄

2.

哲学対話と CT のくみ合わせは、「中身なしに技術なし、技術によって中身が深まる」といういみでの緊張があってもよかった。

R 会員（大学教員（非常勤職を含む））

1.

現在新しい大学のカリキュラム作りをしているので大変参考になった。

2.

異年齢での哲学対話の実践について。

S 会員（大学教員（非常勤職を含む））

1.

有意義なワークショップであった。

疑問点は1つ。CTと哲学対話には差異があるのか。

あるとすればなにかである。心理学的な CT の場合は、おそらく哲学対話とはいいがたい面があると思われる。あるいは、細かな差異にこだわる意味がないのかもしれない。

2.

空欄

T 会員（大学教員（非常勤職を含む））

1.

具体的な授業のやり方など、とり入れてみたい点も多く聞けて有益だった。

2.

空欄

U 会員（学生院生）

1.

先生方の具体的な実践例を伺うことができ、とてもためになりました。

後、内容と全く関係ないのですが、教室に虫がたくさん入ってきて大変でした。

2.

哲学対話、クリティカル・シンキングに限らず、哲学を教えている先生方の教え方、シラバス構成における工夫を伺いたいです。

V 非会員（その他）

1.

それぞれの提題者の実践がそれぞれに興味深かったです。

2.

対話、つまり誰かと考えるということが CT にどのような影響があるのか、もっと議論したかった。

W 会員（大学教員（非常勤職を含む））

1.

CT の担当経験はありません。自分の勤めている学内で初年次教育（CT を含む）のワークショップに参加したことはありますが、学外（特に中高）との交流はなかったので、非常に興味深く、参考になりました。

CT に近いディベートを高・大で教えていますが、CT の実践としてディベートは有効でしょうか？（私自身は有効だと考えています。）

2.

フロアの最後の質問にあったように、哲学研究者が CT を教えることの意義（あるいは強み）が明確でなかったように感じました。

X 会員（大学教員（非常勤職を含む））

1.

たいへん勉強になりました。

2.

同じテーマでくり返しワークショップをするのも一案かなと感じました。

Y 非会員（学生院生）

1.

普段は教わる方ですが今回のワークショップで教える側が一体何を考え、どういった箇所に気を遣い、また教える際の苦労等を聞くことができて大変良かったです。ありがとうございました。

2.

大学だけでなく中・高校といった現場で教える側の意図、生の話を聞くことができるテーマだったと思います。

Z 非会員（その他）

1.

中川先生のビデオおもしろかったです。

コミュニケーションボールよいですね。（夫婦ゲンカの時にも両方しゃべりたがるのを防ぐために使えそうなので作ってみます！！）

中3であれだけの議論が成り立つのは、やはり2年の積み重ねの結果なのでしょうね。

一方でCTを学ばずとも、自ら疑問を抱き、本を読みあさり、思考することでCTは、自然にも身につくのでは、とも思いました。

2.

哲学専門外、非会員でもこうして聞かせて頂きありがとうございました。（哲学は、重要やということを一般人にも伝えるこういう開かれたワークショップ続けて下さい。）

女性の方も多くて、哲学のイメージ（原稿を読みあげるというウワサを聞きました）が変わったワークショップでした。P4CのHP見てみます。